

9/13 春と秋の伝統行事

～こくんぞさん～

▶優雅な浦安の舞は、地域の小・中学生が奉納しています。



四山神社でこくんぞさんが行われました。当日は晴天に恵まれ、浦安の舞がはじまる頃には、多くの参拝者でにぎわいました。

この祭りでは福銭と呼ばれる五円を借り、次のお礼参り倍額以上を添えて返すのがならわしです。五円は神様と金運にご縁があって商売繁盛・縁結び・家庭円満のご利益があり、穴銭は望みが通るといわれています。境内には昨年9月に五円玉の像が奉納され、拜んでいく人や穴の中に顔を入れて記念撮影をする人もいました。

9/17 元気でご長寿、おめでとうございます

～荒尾市敬老大会が開催されました～

▶前畑市長から記念品を受け取る亀原さん(中央)と小川さん(左)



文化センターで荒尾市敬老大会が開催されました。今年、市内で米寿を迎えた383人全員の名前が読み上げられた後、表彰が行われました。代表の亀原圓昭さん(田倉)と小川正子さん(小野)が表彰状と記念品を受け取り、謝辞を述べました。式典後のアトラクションでは、清里保育園となかよし保育園の園児による遊戯や、各地区代表者による演芸が披露され、およそ630人の来場者を楽しませました。荒尾市の高齢者の「元気」が輝いた一日となりました。

9/25 桜山から荒尾の元気を発信

～桜山ふれあい元気祭り～

▶元気に演奏を披露した園児のみなさん



第3回桜山ふれあいげんき祭りは、桜山小学校で開催され、地域の住民など約500人が訪れました。

桜山保育園児と小鳩幼稚園児の子ども御輿がオープニングを飾り、地区住民の皆さんによる太鼓や踊り、合唱などが披露されました。午後には手品やハーモニカ演奏、抽選会などがあり、会場はおおに盛り上がりました。また、食品バザーで販売された桜山げんきかい特製キーマカレーは、完売するほどの盛況でした。

9/29 強い絆で50年 金婚を祝って

～第53回金婚夫婦表彰式～

▶謝辞を述べる右田政英さんと弘子さん



第53回金婚夫婦表彰式は、文化センターで行われました。

この表彰式は、昭和34年から熊本日日新聞社と荒尾市が共催で行っているもので、結婚50周年を迎えた夫婦を祝い、表彰しています。今年には市内で72組の夫婦が祝福を受けました。

式では右田政英さん・弘子さん夫妻(樺下)が代表として表彰状と記念品を受け取り、謝辞を述べました。表彰を受けた皆さん、おめでとうございます。

9/21 県体乗馬 有終の美を飾る

～県体乗馬競技 荒尾市が優勝～

▶右から左藤智久騎手、西村栄喜騎手、平山良一調教師、前畑市長、林陽介騎手



第66回県民体育祭の馬術競技で荒尾市が初優勝を飾りました。チームは監督が調教師で、選手は現役騎手という荒尾競馬で働いている人たちが構成されています。平成15年の第58回大会からの初参加から9度目の出場で栄冠に輝きました。

他のチームのように、障害飛越の練習を行う機会がないハンディキャップを克服し、荒尾競馬の今年度廃止という残念な状況のなかで、有終の美を飾った選手の皆さんは市民の誇りです。

9/25 文学に触れながら楽しくウォーキング

～海達公子文学の散歩道ウォーク&ラリー～

▶旧「小」にある海達公子の像と「夕日」の詩碑もチェックポイントです。



荒尾出身の少女詩人・海達公子の詩碑やゆかりの地を巡るウォークラリーが、一般社団法人海達公子顕彰会の主催で開催されました。

今回で5回目となるこの催しには、市内外から60人の人が参加し、公子の詩と秋の荒尾の風景を楽しみながら歩きました。

また、起点となった荒尾駅前プロログ広場では、フリーマーケットや、ウォーク&ラリー参加者を対象にしたお楽しみ抽選会も開催されました。

9/30 事故のない安全な通学を目指して

～秋の交通安全週間 タッチ運動～

▶雨が降る中、子どもたちは見守られながら、安全に登校しました。



9月30日は「交通事故死ゼロを目指す日」の全国統一日です。緑ヶ丘小学校付近の交差点で、前畑市長や荒尾警察署副署長が交通誘導をする見守り運動「タッチ運動」を行いました。子どもたちは元気なあいさつをして登校しました。

未来への宝物である子どもたちの命を交通事故から守るためにも、私たち一人一人の交通安全意識を高める必要があります。車を運転中、信号機のない横断歩道で子どもを見かけたら車を停止し、安全に横断するのを見守りましょう。

10/1 自慢の荒尾梨、集結

～荒尾梨品評会～

▶1次審査で糖度と硬度を、2次審査で外観や玉揃いを評価します。



荒尾梨品評会が、あらおシティモールで開催されました。JAたまなと荒尾梨部会では、荒尾市特産品の荒尾梨「新高」の品質向上を図るため、昭和46年から毎年品評会を開催しています。途中気象災害などで中止もありましたが、今年で40年目を迎えました。今年も市内の梨農家が腕によりをかけた自信作を出品し、品質を競い合いました。厳正な審査の結果、今年は優等に西嶋恵さん(菟屋)、ジャンボ賞に坂井則勝さん(上赤田)が選ばれました。